

令和6年度 学校努力点

1 主題 向上心を持ち、自分の考えをもって対話する生徒の育成 ～「協働」する場での「主体的な学び」「対話的な学び」を通して～

2 ねらい

「先行き不透明な時代」とも言われるこれからの社会を生きる上で、「夢や目標をもって前向きに取り組もうとする心」＝「向上心」を育むことは極めて重要である。学習の中で、それは「学びに向かう力、人間性」の中心になるものと考えている。

ここ数年コロナ禍が続いた中で、様々な活動が制限され、グループワークなどが困難な状況であった。そのような状況でも、昨年度は対話的な学びの支援を中心とし、個々の意見を集約し多様な考え方に気付かせたり、動画を撮影して動きを再検討できるようにしたりするなどの実践が見られた。そんな中で、令和5年度に提示された「ナゴヤ学びのコンパス」では、名古屋市の学校教育を通じて目指したい姿として「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」と提言されている。これは本校の副題である、『協働』する場での『主体的な学び』『対話的な学び』を通して」に通ずるところがある。

そこで今年度は、従来のグループワークやディベートなどだけでなく、タブレット等の ICT 機器を活用するなど「協働」する場を設定する。そして、自分の考えをもって対話することができるような、「対話的な学び」を推進する中で、「向上心」を育む手立てを考え、実践していきたいと考える。

さらに、キャリア教育を推進することによって、一人一人が個性あふれるかけがえのない存在であることを意識させながら、将来に向けて夢や希望をもたせたい。

3 実践の内容

(1) 各教科・領域・行事での取り組みの検討 (P=計画)

- ・ 全教職員が上記いずれかの分野で取り組むが、教科(道徳含む)の実践を優先する。
- ・ 総合的な学習の時間を中心に、キャリア教育を推奨する。
- ・ 「ナゴヤ学びのコンパス」「なかまなビジョン／なかまなビジョンアラカルト」等を参照する。

① 単元・題材・行事等で育てたい生徒の資質・能力を設定する(指導者の目標)。

- ・ 「主体的な学び」と「対話的な学び」により、①何を理解しているか、何ができるか《知識・技能》、②理解していること・できることをどう使うか《思考力・判断力・表現力》を、生徒が獲得できるようにする。
- ・ 生徒が「向上心」をもって学習に取り組むことができる手立てを用意する。

② 単元・題材・行事等の中で「協働」する場を設定する。

- ・ タブレット等、ICT 機器の活用
- ・ 少人数グループでの課題解決学習／体験学習／発見学習
- ・ ディスカッション／ディベート／ゲストティーチャー 等

- ↓
- ③ 単元、題材、行事等を学ぶ／行うことの、生徒にとっての意義(③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか《学びに向かう力、人間性》)を明確にする(→「D=実行」で、生徒が掴むことができることを目指す)。

↓

(2) 各教科・領域・行事等での取り組み (D=実行)

- ① 単元、題材、行事等の中で、生徒に自分の課題を見いださせ、解決に向けての考えをもたせる(生徒の目標)【主体的な学び】。
- ② 「協働」する場で、互いの考え方について協議・検討し、よりよい課題の解決方法を見いださせる【対話的な学び】。

- ア 自分の意見を主体的に述べる。 →
- イ 友だちの意見を聞き、そのよさを認める。 →
- ウ 自分の考えを広げ、深める。(→アに戻る)

- ↓
- ③ 学んだことや気付いたことを「作文」「ワークシート」等の方法でまとめさせる。
- ※ 活動全体を通して、「主体的な学び」「対話的な学び」の視点を意識した指導・支援をしているか、「よりよい結果をどうすれば得られるか(=学びに向かう力)」という「深い学び」に繋がるような活動内容であるか等についても考えながら取り組む。
- ・ 作文、ワークシートの記述や、事後アンケートの実施等を通して、成果と課題の分析(「育てたい資質・能力」に迫ることができたか)を行う。

(3) 現職教育での検討 (C=評価)

- ・ 2月中旬に、努力点報告(紙上発表)を行う。

(4) 次年度への取り組みの検討 (A=改善)

- ・ 現職教育(努力点報告)等での意見を参考にし、次年度の取り組みを検討・設定する。

4 推進計画

4月	努力点の設定
5月～7月	各自の努力点実践計画作成 各教科・領域・行事等での実践
7月～8月	文献研究等
9月～12月	各教科・領域・行事等での実践
1～2月	実践のまとめ→報告書提出《1月》 現職教育(努力点報告)《2月》 次年度の努力点の検討、設定